

中国国内旅行①
広東省深圳市を訪ねて

豊田美紀

中国国内旅行①～広東省深圳市を訪ねて

豊田美紀

4月になりました。4月5日は中国の祝日「清明節」でした。清明節とは日本のお彼岸のようなものです。日本と同様お墓を掃除してご先祖様や他界した近親者の方々を供養する日です。

さて、今期は太原での暮らしに慣れてきたこともあり、気分転換を兼ねて、連休の時期には中国国内を旅しようと考えました。

清明節休暇には広東省深圳市に住む中国人の親友を訪ねました。ここ太原から深圳までは飛行機で約3時間のフライトです。東京～上海間のフライト時間と殆ど変わらないです。改めて中国大陸の広さを実感したフライトでした。



中国南部の広東省深圳市をご存知の方は多いかと思います。日系企業がオフィスを構える街としても有名です。

ここで少しだけ深圳市についてお話します。深圳市の前身は宝安县だったそうです。中国での「〇〇県」は日本の「県」とは位置づけが異なります。中国では「省→市→県」となります。つまり、日本の「県」に当たるものが「省」です。「市」は日本と同じです。そして「県」は日本の「町」に当たるものとなります。深圳市が宝安县だったころには人口も2万人ほどの客家が暮らす小さな漁村だったそうです。客家とは、紀元前4世紀初めから12世紀（北宋末年）にかけて黄河流域から次第に南方に移住した漢民族の子孫のことです。現在は広東・福建・広西・江西・湖南・四川・台湾・海南などの省または自治区に広く居住する人たちのことを言います。1979年に深圳市と改名され、その翌年に中国初の経済特区となりました。1980年代の改革開放政策により、数年で中国でも有数の近代的な都市に生まれ変わり、中国各地から人々が集まる都市となりました。上記のことから、広東省では珍しく「普通話（共通語）」が話されている地域です。私の友人は生まれも育ちも深圳市ですが、友人の会社の同僚などは湖南省や山東省そして広東省の別の地域から深圳に来ているとのこと。また、深圳市の南側は



香港と接しています。友人の話ですと、通行許可証を持参すれば地下鉄で香港に行けるそうです。

深圳到着後、南国のような雰囲気を感じました。早くも夏日の気温で散歩は半袖で充分でした。気候の違いからも中国大陸の広さを実感しました。親友が「深圳の魅力」をテーマに名所を案内してくれました。また中国南部の美食を紹介してくれました。

親友が毎年春節に初詣で訪れるというお寺に連れてってくれました。私は日本でもお寺を参拝することが好きなので友人がここを選んでくれました。「弘法寺」というお寺でした。やはり日本のお寺とは建築様式が異なります。残念ながら塔の形をした奥の院には一般の人は立ち入りが許可されていませんでした。立派な佇まいでした。清明節だったこともあり沢山の人が訪れていました。友人に教えて貰い初めて「中国式」で私もお参りをしました。長いお線香を3本持って境内数か所の御本尊を参拝するのです。深圳市で一番高いという山の中腹に位置するお寺でした。往復5km程歩き身体もスッキリしました。雑多な日常を離れ雑念を取り払い、清々しい気持ちになりました。

友人の勧めで頂いた美食は海南料理、湖南料理、飲茶、友人のご両親の故郷のお料理などでした。海南料理は鳥鍋でした。椰子の実と鳥の出汁で頂くサッパリ美味なお料理でした。湖南料理は唐辛子のきいたお料理ですが暑い広東省にはピッタリのテイストで美味でした。久々のお魚が有り難かったです。友人のご両親出身の街のお料理が印象深いです。新鮮な海鮮料理を頂きました。自分たちで好みの鮮魚を選んだ後お店で調理して頂けるのです。何と！煮魚料理があったのです。日本人には嬉しいご馳走でした。油から解放されたお料理に癒されました。

大都会深圳での時間は久々に味わう幸せな一時でした。お洒落なカフェにグルメ、ショッピング、何でも揃う街です。ライフライン的なこともお水やお湯が24時間いつでも使えること、Wi-Fiが当たり前のように繋がること、太原では難しいことが全て揃う深圳、何でも揃う環境は実は恵まれていると改めて実感しました。

